

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立豊新小学校の結果

～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

区 名	東淀川区
学 校 名	大阪市立豊新小学校
学 校 長 名	尾崎 士郎

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和8年4月に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立豊新小学校では、第6学年 69名

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立豊新小学校の結果概要

令和8年度全国学力・学習状況調査において、本校の平均正答率は、国語56.0%、算数53.0%であり、いずれも大阪府及び全国の平均を下回る結果となった。国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は65.6%と一定の定着が見られた一方、「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」等に課題が見られた。算数では、「数と計算」「図形」は概ね基礎的な内容が定着しているものの、「変化と関係」「データの活用」に課題が見られた。また、両教科とも「知識・技能」に比べて「思考・判断・表現」の正答率が低く、習得した知識を活用し、根拠をもって考えたり説明したりする力の育成が課題となっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が65.6%であり、基礎的な語句や言語事項については一定の力が身に付いていることが成果として挙げられる。一方、「情報の扱い方に関する事項」42.0%、「書くこと」42.8%と低く、文章や複数の資料から必要な情報を整理・比較し、それを基に自分の考えをまとめ、根拠を明確にして表現する力に課題が見られた。また、「知識・技能」に比べて「思考・判断・表現」の力が十分ではない。今後は、複数の資料を関連付けて読み取る活動や、根拠を明確にして自分の考えを書く活動を日常の授業に位置付け、読解力・表現力の向上を図る必要がある。

算

【算数】

数では、「数と計算」56.5%、「図形」52.9%であり、基礎的な内容については一定の定着が見られた。一方、「変化と関係」35.3%、「データの活用」47.1%と、数量の関係を式・表・グラフから読み取り、根拠をもって説明する力に課題が見られた。また、「知識・技能」56.9%に対して「思考・判断・表現」は41.3%であり、習得した知識・技能を活用して考察し、説明する力の育成が必要である。今後は、「なぜそう考えたのか」を説明する活動や、図・表・式を関連付けて考える学習、活用型・記述式問題への継続的な取組を進める必要がある。

質問調査より

本校では、「自分には、よいところがある」と回答した児童が80.6%、「学校に行くのは楽しい」と回答した児童が82.1%であり、学校生活を前向きに捉えている児童が一定数いることが分かった。一方、いずれも大阪府・全国平均を下回っており、児童の自己肯定感や学校生活への満足感をさらに高めていく必要がある。また、「友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」は80.6%、「友達関係に満足している」は85.0%で、協働的な学びや人間関係についても全国・大阪府を下回る結果となった。さらに、学校の授業時間以外の学習時間では、平日に1時間以上学習する児童が41.9%にとどまり、家庭学習の習慣化が大きな課題である。今後は、授業における対話的な学びを充実させるとともに、児童が自分の成長を実感できる取組を進め、自己肯定感を高める。また、「学力向上WEEK」等と連動し、家庭と連携しながら家庭学習の習慣化を図っていく。

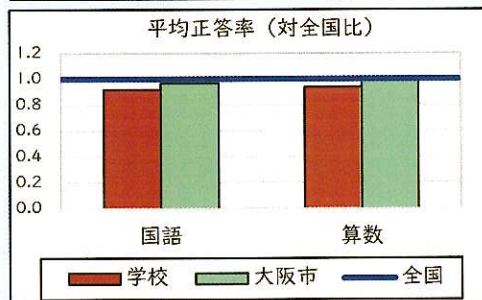
今後の取組（アクションプラン）

今後は、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、国語・算数の授業において「考える・説明する・書く」活動を一層充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を図る。具体的には、複数の資料を比較・関連付ける学習、図・表・式を関連付けて考える学習、活用型・記述式問題への継続的な取り組みを進める。また、「学力向上WEEK」と連動し、デジタルドリルやICT教材を活用した家庭学習を推進するとともに、学習計画や振り返りを取り入れ、自己調整学習の力を育成する。さらに、保護者への啓発と家庭との連携を強化し、学校と家庭が一体となって学習習慣の定着を図る。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要

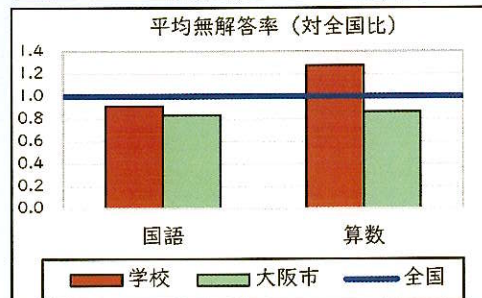
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	56	53
大阪市	59	56
全国	60.9	56.4



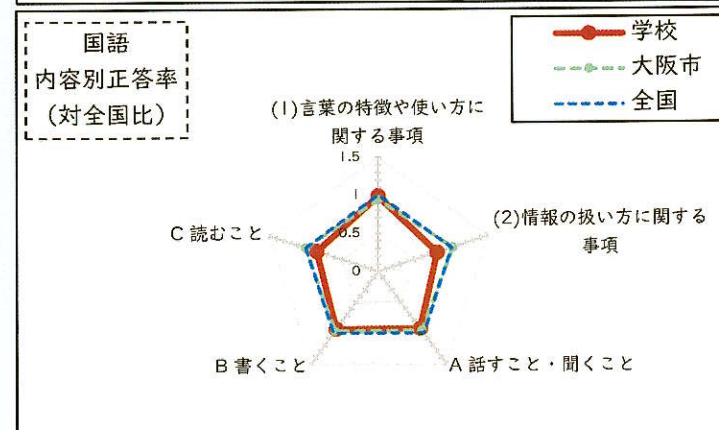
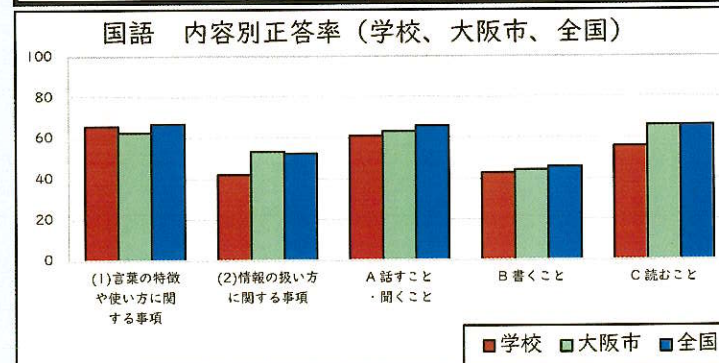
平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	3.1	4.1
大阪市	2.8	2.8
全国	3.4	3.2



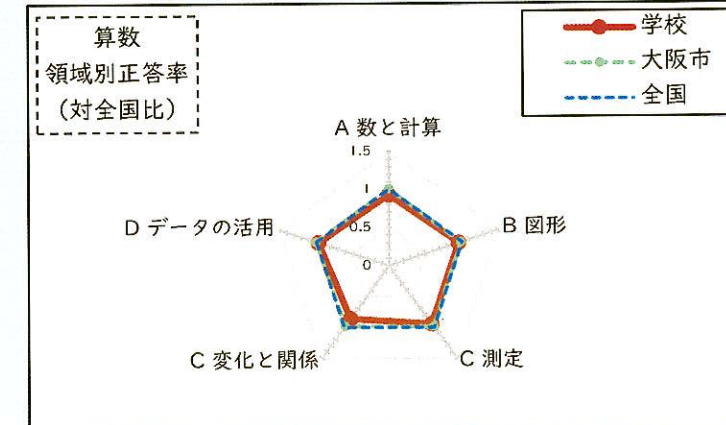
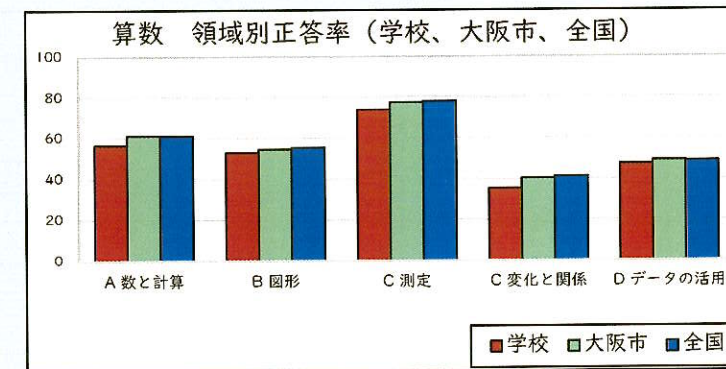
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数(問)	平均正答率 (%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	4	65.6	62.5	66.8
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	42.0	53.2	52.3
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	60.9	63.1	65.8
B 書くこと	2	42.8	44.2	45.7
C 読むこと	2	55.8	66.0	65.9



【算数】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数(問)	平均正答率 (%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	56.5	61.2	61.1
B 図形	4	52.9	54.5	55.3
C 測定	1	73.9	77.5	78.1
C 変化と関係	3	35.3	40.3	41.1
D データの活用	4	47.1	48.8	48.6



令和8年度 全国学力・学習状況調査 児童質問調査より

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

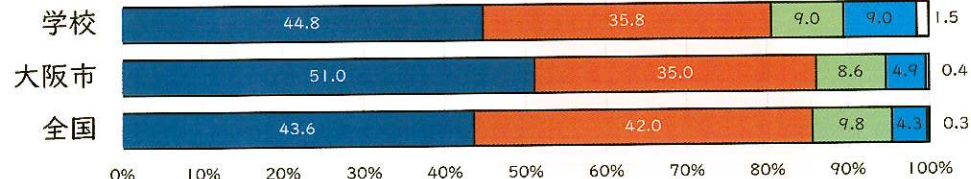
質問番号

質問事項

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

(8)

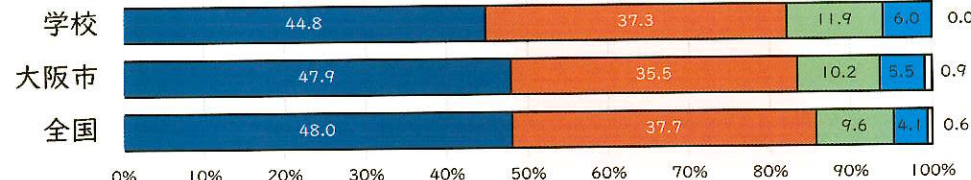
自分には、よいところがあると思いますか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(15)

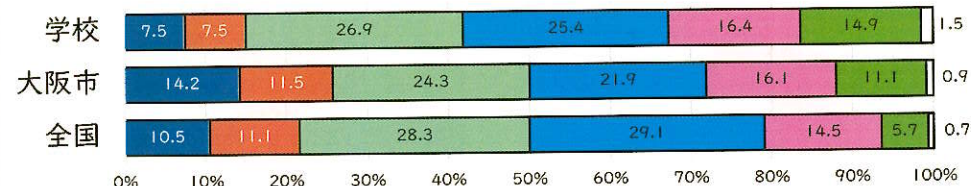
学校に行くのは楽しいと思いますか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(23)

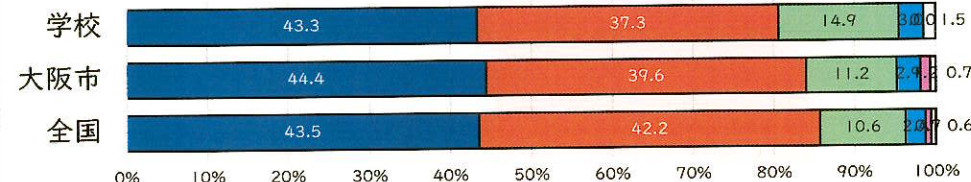
学校の授業時間以外に、自宅（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



- 1 3時間以上
- 2 2時間以上、3時間より少ない
- 3 1時間以上、2時間より少ない
- 4 30分以上、1時間より少ない
- 5 30分より少ない
- 6 全くしない

(42)

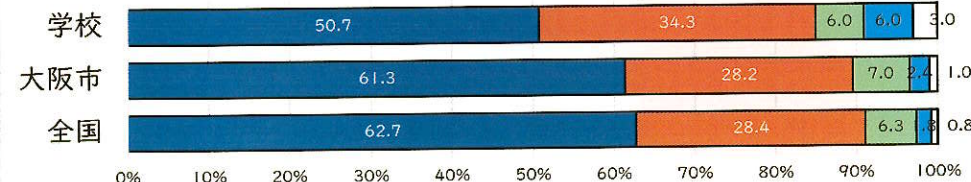
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない
- 5 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない

(17)

友達関係に満足していますか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない